

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370776

研究課題名(和文)古文書の料紙と様式の有機的関連性についての史料学的アプローチ

研究課題名(英文)The Organic Relationship between Writing Paper and Style Used in Diplomatics: An Approach from the Study of Historical Materials

研究代表者

岡野 友彦(okano, tomohiko)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：40278411

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまで主として「様式論」「機能論」といった文字列情報を中心として進められてきた古文書学を、「料紙論」「形態論」といった非文字列情報を中心として進展しつつある近年の古文書学と有機的に関連させることで、その新たな飛躍を試みようとしたものである。具体的には米沢市立上杉博物館所蔵「上杉家文書」、東京大学文学部所蔵「青蓮院文書」、國學院大學所蔵「久我家文書」「吉田家文書」、そして皇學館大学所蔵の中世文書について、熟覧を行うとともに顕微鏡画像撮影等の調査を実施し、特に詳細な調査を行うことのできた皇學館大学所蔵の中世文書55点について、高精細画像と釈文を載せた研究成果報告書を作成した。

研究成果の概要(英文)：This research aims at making new advancements by organically connecting recent trends in diplomatics, which have been focused on analyzing unwritten information in documents using theories of “writing paper” and “morphology,” to the progress that has been made in diplomatics emphasizing the use of “stylistic” and “functional” theories to analyze written information. Specifically, this has been done by close examination and microscope image photography of the “Uesugi House Documents” held by the Uesugi Museum in Yonezawa City, the “Shoren-in Documents” in the Literature Department at the University of Tokyo, the “Koga House Documents” and “Yoshida House Documents” at Kokugakuin University, and medieval documents held by Kogakkan University. In particular, a close investigation of 55 items held by Kogakkan University was performed, and a research report containing high resolution images, transcriptions, and brief notes on them was made.

研究分野：日本中世史

キーワード：古文書学 アーカイヴス学 史料研究 日本中世史

1. 研究開始当初の背景

従来の古文書学は、黒板勝美『国史の研究』によって歴史学の補助学と位置づけられて以来、相田二郎・荻野三七彦・佐藤進一らを中心に、特に中世史の世界でその学問的独立性が提起され、実証的研究が積み重ねられてきた。特に、佐藤進一の説を批判的に発展させる形で、様式論と、それに深く関係する機能論に関わる研究の蓄積には目覚ましいものがある。しかし、様式論や機能論という観点から、古文書上に書かれた「文字列情報」に関心がいくあまり、古文書が本来「もの」として有する様々な「非文字列情報」、例えば伝来過程や墨色・料紙に注目する形での学問的体系の確立は遅れがちであった。

そうした中、1990年代以降、富田正弘を研究代表者として行なわれた一連の科学研究費受託研究によって、古文書の料紙に関する研究は長足の進歩を遂げた。これらの研究は、科学的手法を用いて古文書料紙を分析した先行研究として高く評価できるものであるが、一方で「料紙」論にこだわる余り、もはや古文書学という分野を超越し、紙素材文化財全般を論ずる研究となっていることも事実である。そこでこうした研究成果を、もう一度古文書学の世界に持ち帰り、古文書の様式論・機能論とリンクさせたならば、古文書学のより大きな飛躍を期することができるに違いない。

研究代表者岡野友彦、および研究分担者漆原徹らは、こうした問題意識の下、平成23年度から25年度まで「古文書学の再構築 文字列情報と非文字列情報の融合」と題して、科学研究費基盤(C)の受託を受け、調査・研究を行ってきた。本研究は、その課題研究の延長線上に位置づけられるものである。

2. 研究の目的

本研究では、上記の問題意識を踏まえ、古文書がその「もの」として有するところの、料紙を中心とした非文字列情報を、様式論に代表される古文書上に書かれた文字列情報とリンクさせることで、新たな古文書学を再構築することを目的とした。

もちろんこれまでも古文書学の世界では、例えば綸旨や口宣案といった蔵人所発給文書は、蔵人所直属の紙屋院で漉き返された宿紙(薄墨紙)が用いられること、あるいは起請文の料紙としては、必ず牛玉宝印の捺された文書が用いられることなどがよく知られていた。しかし、「引合」「杉原」「檀紙」などと呼ばれる料紙が、具体的にどのような様式の文書に用いられていたのかという問題については、未だ明確なところが多い。本研究はそうした研究上の盲点を少しでも明らかにしようとしたものである。

3. 研究の方法

上記の研究目的を、わずか3年間という

研究期間で達成するためには、ある一定の古文書群に限定してその調査・研究を行うほかない。そこでここでは、米沢市上杉博物館所蔵「上杉文書」、東京大学文学部所蔵「青蓮院文書」、國學院大學所蔵「久我家文書」「吉田家文書」、そして皇學館大学所蔵の中世文書を題材として、写真撮影・顕微鏡撮影・軽量機を用いた質量の分析などを行い、非文字列情報のデータベースを構築するとともに、その結果を踏まえた研究会を開催し、その成果を報告書として公開することとした。

4. 研究成果

上記の古文書調査の内、特に詳細な調査を実施することのできた皇學館大学所蔵文書について、高精細画像で撮影したデータを基にその分析を行い、その中から、特に慶長5年(1600)以前の古文書55点を抽出して平成29年3月、科学研究費助成事業「古文書の料紙と様式の有機的関連性についての史料学的アプローチ」研究成果報告書『皇學館大学所蔵の中世文書』という形で、高精細画像と釈文を載せた報告書を刊行した。同書に掲載・公開した古文書は下記の55点である。

- 1、掃守某畠地売券
(応徳元年(1084)2月13日)
- 2、関東御教書
(建仁3年(1203)8月15日)
- 3、某莊預所下文
(弘安9年(1286)閏12月 日)
- 4、慶讃田地避状
(弘安10年(1287)3月24日)
- 5、金坊畠地売券
(永仁5年(1297)正月16日)
- 6、吉熊丸畠地売券
(永仁5年(1297)11月8日)
- 7、鎮西御教書
(延慶3年(1310)12月22日)
- 8、国氏借錢状
(正和5年(1316)3月14日)
- 9、叙位申文目録
(年月日未詳・鎌倉時代)
- 10、任官申文目録
(年月日未詳(~1317))
- 11、某社祝百姓職宛行状
(嘉暦2年(1327)4月24日)
- 12、後伏見上皇院宣案
(年未詳(~1330)11月3日)
- 13、中御門経季袖判下文
(元弘2年(1332)2月 日)
- 14、東大寺別当聖珍御教書
(建武2年(1335)5月9日)
- 15、一色範氏軍勢催促状
(建武4年(1337)3月5日)
- 16、一色範氏書下
(建武4年(1337)3月20日)
- 17、野津親久代惟親軍忠状
(建武5年(1338)正月 日)
- 18、内田熊若丸代藤原兼家軍忠状
(暦応4年(1341)7月日)

- 19、足利直冬軍勢催促状
(貞和5年(1349)8月28日)
- 20、河内国国宣
(観応元年(1350)9月28日)
- 21、某將軍宮令旨
(正平6年(1351)8月23日)
- 22、某書状
(年月日未詳・南北朝時代)
- 23、左衛門尉某奉書
(正平8年(1352)3月10日)
- 24、後光厳天皇口宣案
(貞治3年(1364)2月2日)
- 25、今川了俊施行状
(応永元年(1394)12月27日)
- 26、蓮花寺田見参料検納状
(永享5年(1433)9月14日)
- 27、後花園天皇口宣案
(寛正5年(1464)9月17日)
- 28、大友親治書状
(明応5年(1496)3月2日)
- 29、大内義興書状
(年未詳(～1511)7月2日)
- 30、小槻時元文書送状
(永正14年(1517)正月16日)
- 31、大主屋又六畠地買得状
(大永5年(1525)10月17日)
- 32、米屋弘延屋敷売券案
(大永7年(1527)8月21日)
- 33、大友家奉行人連署奉書
(享禄元年(1528)12月3日)
- 34、大たけ弘延道者売券
(享禄2年(1529)5月吉日)
- 35、布屋重弘道者質入証文
(享禄3年(1530)4月3日)
- 36、安楽寿院壁書
(天文20年(1551)10月15日)
- 37、幸福光治・同光任神谷御厨上分米売券
(天文20年(1551)11月18日)
- 38、不破専光坊伊勢御供米売券
(天文21年(1552)11月18日)
- 39、竹中二郎大夫畠地売券
(天文23年(1554)12月15日)
- 40、高向村又三郎畠地売券
(弘治2年(1556)4月6日)
- 41、高橋重房伊勢御供米田下地売券
(弘治2年(1556)11月晦日)
- 42、美濃国御供田日記
(弘治3年(1557)11月14日)
- 43、飯沼源左衛門書状
(年未詳(戦国時代)3月18日)
- 44、養光坊裕覚田地売券
(永禄4年(1561)5月2日)
- 45、石清水八幡宮寺大堂供宝樹頭役差定文
(永禄5年(1562)12月吉日)
- 46、瀧川一益書状
(天正元年(1573)11月5日)
- 47、神宮祭主大中臣慶忠書状
(天正9年(1581)5月19日)
- 48、伊勢神宮一社奉幣帛送状
(天正11年(1585)10月9日)

- 49、大友宗麟書状
(年未詳(～1587)12月13日)
 - 50、豊臣秀吉朱印状
(天正18年(1590)3月29日)
 - 51、稲葉貞通書状
(文禄元年(1592)9月24日)
 - 52、内宮長官荒木田守通書状
(文禄3年(1594)8月10日)
 - 53、持明院基孝神楽秘曲伝授状
(文禄4年(1595)11月3日)
 - 54、内宮禰宜荒木田氏晴・守政連署書状
(慶長3年(1598)7月3日)
 - 55、徳川家康御内書
(慶長5年(1600)7月15日)
- 掲載に当たっては、料紙の質感までわかるように高精細画像を復元する印刷を心がけ、再三の色校正によって、それを実現した。また様式も1号文書のような公式様文書から、3号文書のような下文様文書、12号文書のような奉書様文書といった中世文書の各様式を、平安末期(1084年)から安土桃山時代(1600年)まで偏りなく配置するよう心がけた。ちなみに10号・24号・27号文書は宿紙、9号・50号・51号・52号・54号・55号文書は折紙、43号・46号は切紙を用いており、22号文書は紙背文書である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)
漆原徹、軍功の認定に関する若干の考察、武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要、査読無、7号、2017年、pp135-147

[学会発表](計 1件)
花田卓司、南北朝期の二重証判制度をめぐって、奈良歴史研究会、2016年9月15日、奈良市ならまちセンター(奈良県・奈良市)

[図書](計 2件)
岡野友彦・漆原徹・花田卓司、平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業基盤研究(C)研究成果報告書、皇學館大学所蔵の中世文書、2017年、pp117

岡野友彦、吉川弘文館、戦国貴族の生き残り戦略、2015年、pp229

6. 研究組織

(1)研究代表者
岡野 友彦 (OKANO, Tomohiko)
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：40278411

(2)研究分担者
漆原 徹 (URUSHIHARA, Toru)
武蔵野大学・文学部・教授
研究者番号：20248991

花田卓司 (HANADA, Takuji)
帝塚山大学・文学部・講師
研究者番号：60584373